



# Cisco Unity ViewMail for Microsoft Outlook Release 4.0(5) リリース ノート

Published April 14, 2005

このリリース ノートには、Cisco Unity ViewMail for Microsoft Outlook リリース 4.0(5) の要件、ダウンロードとインストールの手順、制約と制限事項、および未解決の警告と解決済みの警告が記載されています。

ViewMail 4.0(5) は、Cisco Unity 4.0(5) DVD 1 および CD 1 から入手できます。また、ViewMail for Microsoft Outlook ソフトウェア ダウンロード ページ

( <http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/unity-vmo> ) でも入手できます。

ViewMail バージョン 4.0(5) は、次のバージョンの Cisco Unity (Microsoft Exchange 版) および ViewMail で必要なユーザワークステーション上のソフトウェアとの組み合わせに適しています。

**表 1 ViewMail 4.0(5)、Cisco Unity (Exchange 版) およびユーザワークステーション上のソフトウェアのサポートされるバージョンの組み合わせ**

ワークステーション上の Cisco Unity ViewMail for Microsoft Outlook	Cisco Unity	ワークステーション上のオペレーティングシステム	ワークステーション上のメールクライアント <sup>1</sup>
<ul style="list-style-type: none"><li>4.0(5)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>4.0(x)</li><li>3.1(x)</li><li>3.0(x)</li><li>2.4(6.x)<sup>2</sup></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>Windows 2003</li><li>Windows XP</li><li>Windows 2000</li><li>Windows NT 4.0</li><li>Windows ME</li><li>Windows 98</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>Outlook 2003</li><li>Outlook 2002 (XP)</li><li>Outlook 2000</li><li>Outlook 98</li></ul>

1. Windows 2000 または Windows XP で Outlook 98 を使用するユーザが ViewMail を使用するには、ワークステーションのローカル管理者権限が必要です。詳細については、警告 CSCeb51411 を参照してください。Bug Toolkit は、[http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch\\_bugtool.pl](http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch_bugtool.pl) から入手できます。

2. Cisco Unity 2.4(6.x) システムで ViewMail for Outlook バージョン 3.0(x) 以降を使用できるのは、ActiveFax がインストールされていない場合に限ります。ActiveFax は、Cisco Unity の以前のバージョンで使用可能なファックスサーバです。

  
(注)

Microsoft Outlook 2002 Connector を使用している場合でも、ViewMail は、IBM Lotus Domino サーバに保存されたボイスメッセージをサポートしません。

ViewMail、Cisco Unity (Exchange 版)、およびユーザワークステーション上のソフトウェアとの適合が確認されたバージョンの組み合わせの最新リスト( ViewMail バージョン 4.0(5) リリース以降に確認された組み合わせおよびユーザワークステーション上のソフトウェアのサポート ポリシーを含む)については、『*互換性マトリクス : Cisco Unity とユーザワークステーション上のソフトウェア*』を参照してください。

ViewMail が使用できる言語のリストについては、『*Cisco Unity 4.0 システム要件およびサポートされるハードウェアとソフトウェア*』の「Cisco Unity の言語」の項を参照してください。

## 目次

- [要件 \(P.3\)](#)
- [ViewMail バージョンの特定 \(P.3\)](#)
- [ViewMail の以前のバージョンからのアップグレード \(P.4\)](#)
- [ViewMail 4.0\(5\) のダウンロード \(P.6\)](#)
- [ViewMail 4.0\(5\) のインストール \(P.7\)](#)
- [インストールとアップグレードに関する注意事項 \(P.9\)](#)
- [制約および制限事項 \(P.10\)](#)
- [警告 \(P.13\)](#)
- [Cisco Unity に関するドキュメント \(P.14\)](#)
- [技術情報の入手方法 \(P.15\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(P.17\)](#)
- [テクニカル サポート \(P.18\)](#)
- [その他の資料および情報の入手方法 \(P.20\)](#)

## 要件

- ViewMail をインストールするには、ユーザ ワークステーションのローカル管理者権限を持っている必要があります。
- ユーザ ワークステーションには、ViewMail で使用する言語ごとに 7 MB 以上のハードディスク空き領域が必要です。
- ViewMail をインストールする際は、ユーザ ワークステーションで Outlook を実行しないでください。また、ウイルス検出サービスを無効にしてください。
- ViewMail 4.0(5) をインストールする前に、以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4(6.x) をユーザ ワークステーションから削除する必要があります。P.4 の「[以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4\(6.x\) の削除](#)」を参照してください。
- ViewMail 4.0(5) をインストールする前に、以前にインストールした ViewMail バージョン 4.0(x) をユーザ ワークステーションから削除する必要があります。ViewMail 4.0(5) のインストールと同時に削除できます。または、Windows の [アプリケーションの追加と削除] を使用して削除できます。

## ViewMail バージョンの特定

ユーザ ワークステーション上で使用している ViewMail のバージョンを特定する方法は 2 つあります。該当するいずれかの手順を実行します。

### 使用している ViewMail のバージョンを [アプリケーションの追加と削除] から特定する

- ステップ 1 ユーザ ワークステーションで、[設定]>[コントロール パネル]>[アプリケーションの追加と削除]を選択します。
- ステップ 2 [現在インストールされているプログラム] リストで、ViewMail for Outlook を検索します。

### 使用している ViewMail のバージョンを Outlook から特定する

ユーザ ワークステーション上の Outlook 受信トレイで、[ヘルプ]メニューの[バージョン情報]をクリックします。

## ViewMail の以前のバージョンからのアップグレード

ユーザは ViewMail バージョン 4.0(x) を使用するための特殊な Class of Service (COS; サービスクラス) 特権やパスワードを持つ必要がありません。ViewMail をインストールしたすべてのユーザが使用できます。

組織内でユーザが現在使用している ViewMail のバージョンによっては、バージョン 4.0(5) にアップグレードする前に ViewMail をアンインストールする必要がある場合があります。

- ユーザが ViewMail 4.0(x) を使用している場合は、ViewMail 4.0(5) をインストールするときにアンインストールできます。ViewMail 4.0(5) をインストールする際は、前のバージョンと同じディレクトリにインストールしてください。
- ViewMail バージョン 3.0(x) または 3.1(x) のアンインストールは必要ありません。また、お勧めしません。アンインストールしようとする、Dr.Watson エラーが発生する場合があります(詳細については、「[制約および制限事項](#)」の P.10 の「[ViewMail バージョン 3.x は完全にアンインストールできない](#)」を参照してください)。
- ユーザが ViewMail 2.4(6.x) を使用している場合は、バージョン 4.0(5) をインストールする前に、「[以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4\(6.x\) の削除](#)」の手順に従って ViewMail のバージョン 2.4(6) をアンインストールしてください。

このリリース ノートの適切な項を参照して、ViewMail 4.0(5) をダウンロードおよびインストールしてください。

### 以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4(6.x) の削除

ViewMail 4.0(5) をインストールする前に、以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4(6.x) および関連する LightningFAX レジストリ キーをユーザ ワークステーションから削除する必要があります。

ViewMail を削除すると、ユーザが受け取る最初のボイス メッセージは、ViewMail アイコンのあるボイス メッセージとして表示されます。ユーザがボイス メッセージを開くと、そのボイス メッセージの形式は使用できないというエラー メッセージが Outlook によって表示されます。ただし、このエラー メッセージが表示されても、ユーザはボイス メッセージを開くことができます。

2 通目以降のボイス メッセージは、ViewMail アイコンのない WAV 添付ファイル付きの電子メール メッセージとして表示されます。ユーザがメッセージを開いたときにエラー メッセージが表示されることはありません。

#### ViewMail バージョン 2.4(6.x) および関連する LightningFAX レジストリ キーを削除する

- ステップ 1 ViewMail を実行している各ユーザ ワークステーションで、Windows の [ スタート ] メニューから、[ 設定 ] > [ コントロール パネル ] > [ アプリケーションの追加と削除 ] を選択します。
- ステップ 2 [ 現在インストールされているプログラム ] リストで、[ ViewMail for Outlook ] をクリックしてから [ 変更 / 削除 ] をクリックします。
- ステップ 3 画面の指示に従って ViewMail for Outlook を削除します。DLL などの共有ファイルの削除を確認するプロンプトが表示されたら、[ すべていいえ ] をクリックします。
- ステップ 4 システムが LightningFAX を使用していなかった場合は、この手順は終了です。

システムが LightningFAX を使用していた場合は、Regedit を起動します。



**注意** 不正なレジストリ キーの変更や、不正な値の入力によって、ワークステーションが起動しなくなることがあります。レジストリを編集する前に、問題発生時のレジストリの復元方法を確認してください（レジストリ エディタ ヘルプの「レジストリを復元する」の項目を参照してください）。レジストリ キー設定の変更に関するご質問は、Cisco TAC にお問い合わせください。

**ステップ 5** レジストリの現在のバックアップがない場合は、[レジストリ] > [レジストリ ファイルの書き出し] をクリックし、ファイルにレジストリ設定を保存します。

**ステップ 6** 次の 2 つのレジストリ キーを削除します。

- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\App Management\ARPCache\LightningFAX 6.5 - PrintToMail
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\ControlSet002\Control\Print\Monitors\LightningFAX

**ステップ 7** Regedit を終了します。

## ViewMail 4.0(5) のダウンロード

ViewMail for Microsoft Outlook ソフトウェア ダウンロード ページから ViewMail をダウンロードするには、次の手順を実行します。

### ViewMail 4.0(5) をダウンロードする

- 
- ステップ 1 ファイルの解凍場所として使用するコンピュータのハード ディスク空き領域が、ファイルのダウンロードに必要な領域の他に 80 MB 以上あることを確認します (ダウンロード ファイルのサイズは、ダウンロード ページに表示されます)。
- ステップ 2 高速インターネット接続が可能なコンピュータで、ViewMail for Microsoft Outlook ソフトウェア ダウンロード ページ (<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/unity-vmo>) に移動します。



(注) ソフトウェア ダウンロード ページにアクセスするには、Cisco.com に登録ユーザとしてログインする必要があります。

---

- ステップ 3 CiscoUnity.VMO4.0.5.exe ファイルを任意のディレクトリにダウンロードします。
- ステップ 4 CiscoUnity.VMO4.0.5.exe をダブルクリックし、画面の指示に従って選択したネットワーク ドライブの任意のディレクトリにファイルを解凍します (あるいは書き込み可能な CD に解凍して、後でネットワークにコピーします)。

選択したディレクトリ内に CiscoUnity.VMO4.0.5 ディレクトリが作成されて、そこにファイルが解凍されます。

- ステップ 5 CiscoUnity.VMO4.0.5.exe ファイルを削除して、ハード ディスクの空き領域を増やします。
-

## ViewMail 4.0(5) のインストール

ViewMail は、さまざまな方法で組織内のユーザ ワークステーションにインストールできます。インストールおよび展開には、次のような方法があります。

- ViewMail をディスクまたはネットワーク ドライブからインストールする。P.8 の「Cisco Unity DVD、CD、またはネットワーク ドライブからの ViewMail 4.0(5) のインストール」を参照してください。また、ユーザが自分で ViewMail をインストールできるように、ViewMail セットアッププログラムへのネットワーク アクセスを提供し、手順を通知することも検討してください。
- Microsoft IntelliMirror や Systems Management Server( SMS )バージョン 1.2/2.0 などのソフトウェア配布ツールを使用して、ViewMail を複数のユーザ ワークステーションに一度に展開する。これらのツールの使用法については、Microsoft の Web サイトを参照してください。

IntelliMirror を使用して ViewMail を展開する場合は、個々のユーザではなくコンピュータに対して Viewmail を割り当てるか配布します。また、IntelliMirror や SMS を利用して ViewMail の将来のアップグレードを配布することもできます。

- Office 2000 パッケージまたは Office XP パッケージの一部として、Microsoft Office とともに ViewMail を展開する。



注意

ユーザワークステーション上に新しいバージョンの Microsoft Outlook をインストールする場合は、最初に ViewMail をアンインストールする必要があります。Microsoft Outlook をインストールした後で、ViewMail を再インストールします。この作業を行わない場合、ViewMail は新しいバージョンの Outlook とともに正しくインストールされているように見えても、実際は機能しません。

デフォルトでは、ViewMail のファイルは C:\Program Files\ViewMail ディレクトリにインストールされます。別のディレクトリを指定することもできます。アップグレードのベスト プラクティスとして、前のバージョンで使用した同じディレクトリに ViewMail をインストールします。

また、ViewMail は、次のファイルとレジストリ キーをインストールし、使用します。

ファイル <sup>1</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• AvResLoaderSvrSL.dll</li> <li>• AvResSvr.dll</li> <li>• AvTrapConnectionHolderSvr.dll</li> <li>• AvTsmSL.dll</li> <li>• AvVox.acm</li> <li>• AvWavSL.dll</li> <li>• SL_g729a.acm</li> </ul>
レジストリ キー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\Media Master\Profiles</li> <li>• HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\Media Master\Profiles\default</li> <li>• HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\Media Master\Profiles\&lt;subscriber 1 alias&gt;</li> <li>• HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\Media Master\Profiles\&lt;subscriber 2 alias&gt;</li> <li>• HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Options</li> <li>• HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Active Voice</li> <li>• HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Exchange\Client\Extensions\ViewMail Extensions</li> </ul>

1. Windows のバージョンに応じて、ファイルは C:\Windows\System、C:\Winnt\System32、または C:\Windows\System32 のいずれかのディレクトリにインストールされます。

## Cisco Unity DVD、CD、またはネットワーク ドライブからの ViewMail 4.0(5) のインストール

Cisco Unity DVD、CD、またはネットワーク ドライブから ユーザが使用するワークステーションに ViewMail をインストールするには、次の手順を実行します。1 台のワークステーションを共有する複数のユーザ用に ViewMail をインストールすることもできます。

### Cisco Unity DVD、CD、またはネットワーク ドライブから ViewMail 4.0(5) をインストールする

- ステップ 1 ViewMail の要件が満たされていることを確認します。P.3 の「要件」を参照してください。
- ステップ 2 Cisco Unity 4.0(5) DVD 1 または CD 1、あるいはネットワーク ドライブで、ViewMail ファイルをダウンロードした ViewMail ディレクトリを参照します。
- ステップ 3 ViewMail ディレクトリで、該当する言語のフォルダを参照します (ViewMail ディレクトリには、ViewMail がサポートしている言語ごとに個別のフォルダがあります)。
- ステップ 4 **ViewMail.msi** ファイルをダブルクリックします。



- (注) 使用しているバージョンの Windows NT、Windows ME、または Windows 98 が MSI パッケージをサポートしていない場合は、Microsoft から MSI インストーラをダウンロードできます (Microsoft の Web サイトで「Windows Installer ダウンロード」を検索してください)。また、Windows Installer のログ収集は、デフォルトではオンになっていません。ViewMail のインストール前にログ収集をオンにする方法、およびインストール後にトラブルシューティングのためにオンにする方法の詳細については、Microsoft の Web サイトで「MSI ログ収集」に関するトピックを検索してください。

- ステップ 5 ViewMail の以前のバージョン 4.0(x) がインストールされている場合は、画面の指示に従って削除します。アンインストールが終了したら、ViewMail.msi ファイルをもう一度ダブルクリックして ViewMail 4.0(5) をインストールします。
- ステップ 6 画面の指示に従ってインストールを完了します。

## インストールとアップグレードに関する注意事項

### 期限が切れたバージョンのオペレーティング システム ファイルに必要な Microsoft ホット フィックス

Windows 98 または Windows ME を実行しているユーザ ワークステーションに ViewMail がインストールされている場合、ViewMail は、オペレーティング システム ファイル Rpcltscm.dll がバージョン 4.71.3400 以降であることを確認してから、インストールを完了します。それより前のバージョンの Rpcltscm.dll を使用すると、ViewMail が Cisco Unity サーバの動作に悪影響を与えます。

Rpcltscm.dll のバージョンの期限が切れている場合は、ViewMail のインストールが中断され、Microsoft ホット フィックスをインストールしてから続行するように指示するエラー メッセージが表示されます。ホット フィックスのダウンロードとインストールの情報および手順については、Microsoft Product Support Services の Web サイトの Knowledge Base 記事 315575 (*DCOM Program Hangs After Server Reboot Creating DCOM Object*) を参照してください。

警告 CSCdz48740 もまた、ホット フィックス要件に対応します。Bug Toolkit は、[http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch\\_bugtool.pl](http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch_bugtool.pl) から入手できます。

## 制約および制限事項

### Authentium Command AntiVirus for Windows はサポートされない

Authentium Command AntiVirus for Microsoft Windows は、Cisco Unity のユーザワークステーションではサポートされません。

### ユーザワークステーション上の一部のソフトウェアによって ViewMail がエラーになる

一部のセキュリティソフトウェアおよび VPN ソフトウェアがユーザワークステーションにインストールされていると、ユーザが電話をメディア マスタの再生デバイスとして使用したときに、ViewMail がエラーになる可能性があります。特に、パーソナル ファイアウォールを提供するソフトウェアでは問題が発生しやすいと考えられます。

セキュリティソフトウェアと VPN ソフトウェアを使用不可にするか、ユーザワークステーションから削除してください。または、ユーザが ViewMail のメッセージをコンピュータのスピーカで再生できるようにメディア マスタを設定します。

### ユーザのメールボックスがいっぱいになると ViewMail フォームがロードされない

ユーザのメールボックスが [ 送受信を禁止する ] の制限値に達している場合は、ユーザが Outlook を起動しても ViewMail はロードされません。ViewMail フォームは、メールボックスのサイズを小さくするまでパブリッシュできません。

### ViewMail バージョン 3.x は完全にアンインストールできない

ViewMail バージョン 3.1(x) または 3.0(x) をアンインストールしようとする、ViewMail は通常、完全にアンインストールできません。一部の ViewMail ファイルがユーザワークステーションに、ViewMail コンポーネントが Outlook に残ります。また ViewMail は、Windows のアプリケーションの追加と削除リストから削除されません。さらに、ViewMail バージョン 3.x をアンインストールすると、Windows 2000 の Dr. Watson エラー ログまたは Windows 98 のアプリケーション違反エラーが生成されます。

詳細については、警告 CSCdv16845 を参照してください。Bug Toolkit は、[http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch\\_bugtool.pl](http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch_bugtool.pl) から入手できます。

この警告は ViewMail 4.0(x) では解決されていますが、それ以前のバージョンでは解決されていないことに注意してください。以前のバージョンの場合は、次の 3 つの手順を順番に実行して、ユーザワークステーションから残りの ViewMail ファイルを、Outlook から ViewMail コンポーネントを、また Windows のアプリケーションの追加と削除から ViewMail のリストを、それぞれ手動で削除します。

#### ユーザワークステーションから ViewMail ファイルを削除する

**ステップ 1** Program Files\ViewMail ディレクトリとそのコンポーネントをすべて削除します。

**ステップ 2** 次の 7 つのファイル (存在する場合) を、Windows のバージョンに応じて C:\Windows\System、C:\Winnt\System32、または C:\Windows\System32 のいずれかのディレクトリから削除します。

- AvResLoaderSvrSL.dll

- AvTrapConnectionHolderSvr.exe
- AvTsmSL.dll
- AvVox.acm
- AvWavSl.dll
- AvResSvr.dll
- SL\_G729A.acm

### Outlook から ViewMail コンポーネントを削除する

- ステップ 1 Outlook の [ ツール ] メニューで、[ オプション ] をクリックします。
- ステップ 2 [ その他 ] タブをクリックし、[ 詳細オプション ] をクリックします。
- ステップ 3 [ 詳細オプション ] ダイアログボックスで、[ ユーザ設定フォーム ] をクリックします。
- ステップ 4 [ オプション ] ダイアログボックスで、[ フォームの管理 ] をクリックします。
- ステップ 5 [ フォーム マネージャ ] ダイアログボックスの [ 個人用フォーム ] に ViewMail for Outlook が表示されていることを確認します。
- ステップ 6 [ ViewMail for Outlook ] を選択し、[ 削除 ] をクリックします。プロンプトが表示されたら、[ はい ] をクリックしてフォームを削除します。
- ステップ 7 [ 閉じる ] をクリックして、[ OK ] をクリックします。
- ステップ 8 [ 詳細オプション ] ダイアログボックスで [ アドイン マネージャ ] をクリックします。
- ステップ 9 [ アドイン マネージャ ] ダイアログボックスで、[ ViewMail Extensions ] チェックボックスのチェックを解除して、[ OK ] をクリックします。
- ステップ 10 [ OK ] をクリックして残りのダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 11 Regedit を起動します。



**注意** 不正なレジストリ キーの変更や、不正な値の入力によって、ワークステーションが起動しなくなることがあります。レジストリを編集する前に、問題発生時のレジストリの復元方法を確認してください（レジストリ エディタ ヘルプの「レジストリを復元する」の項目を参照してください）。レジストリ キー設定の変更に関するご質問は、Cisco TAC にお問い合わせください。

- ステップ 12 レジストリの現在のバックアップがない場合は、[ レジストリ ] > [ レジストリ ファイルの書き出し ] をクリックし、ファイルにレジストリ設定を保存します。
- ステップ 13 次のキーを展開します。  
HKEY\_LOCAL\_MACHINE\Software\Microsoft\Exchange\Client\Extensions

ステップ 14 [ ViewMail Extensions ] キーを削除します。

ステップ 15 Regedit を終了します。

ステップ 16 Outlook を再起動します。

---

### Windows のアプリケーションの追加と削除リストから ViewMail を手動で削除する

---

Microsoft Product Support Services Web サイトの Knowledge Base 記事 247501 ( *How to Manually Remove Programs from the Add/Remove Programs List* ) を参照してください。

---

### Windows ターミナル サービスはサポートされない

Windows Terminal Services ( WTS; Windows ターミナル サービス ) は、ViewMail を使用するユーザーワークステーションではサポートされません。

### YAMAHA 製のシンセサイザ ソフトウェアはサポートされない

YAMAHA 製のサウンド シンセサイザ ソフトウェアは、ViewMail を使用する Cisco Unity ユーザーワークステーションではサポートされません。

## 警告

この項では、重大度 1 と 2、および重大度 3（抜粋）の警告について説明します。

Cisco.com のアカウントを持っている場合は、Bug Toolkit を使用して、すべてのリリースについての重大度の警告だけでなく、この項の警告の詳細も検索できます。Bug Toolkit は、Web サイト ([http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch\\_bugtool.pl](http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch_bugtool.pl)) から入手できます。

この項に記載されている警告は、ViewMail リリース 4.0(5) に関するもののみです。ViewMail の以前のバージョンに関する警告については、当該バージョンのリリース ノートを参照してください。ViewMail のどのバージョンのリリース ノートも、  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_release_notes_list.html) から入手できます。

### 未解決の警告：リリース 4.0(5)

表 2 ViewMail リリース 4.0(5) の未解決の警告

警告番号	重大度	説明
CSCsa76767	3	メディア マスタによって ViewMail に録音されたメッセージが、Cisco Unity サーバで選択されている録音形式でない場合でも G.711 コーデックに録音および格納されます。  対処法はありません。

### 解決済みの警告：リリース 4.0(5)

表 3 ViewMail リリース 4.0(5) の解決済みの警告

警告番号	重大度	説明
CSCef04548	3	電話での録音と再生 (TRaP) 機能は、ユーザの電話にメッセージを再生するために使用されますが、電話には応答しません。着信は、ループ内のボイスメールに転送されます。  <b>対処法</b> Unity が別のボイスメール ポートからの通話に応答することを防ぐ以外に対処法はありません。エラーがイベント ログに生成されますが、少なくとも、不正なボイスメール メッセージが録音されることはありません。Unity が着信を許可しないようにするには、レジストリ設定 HKLM\Software\Active Voice\Arbiter\1.0\System Configuration DWORD “Allow Calls from Voice Mail” を 0 にします。  4.05 以降では、Advanced Settings Tool を使用して、TRaP 着信を行うときに Cisco Unity が待つ呼び出し音の最大数を調整できます。設定は、[ Administration ] の [ Set Maximum Number of Rings to Wait For TRAP Calls ] で行います。詳細については、Advanced Settings Tool のヘルプを参照してください。
CSCef26357	2	TRaP : VMO で録音が中断します。電話の呼び出し音は鳴りますが録音されません。これは、Cisco Unity の展開において、Cisco Unity が使用するドメインによって信頼されているドメインにユーザがログインしていない場合に発生します。
CSCef41739	3	メッセージを受信ボックス フォルダからパブリック フォルダに移動したときに、ViewMail の電話での録音と再生 (TRaP) 機能により、電話の呼び出し音は鳴りますが、応答の後で切断されます。
CSCef49856	3	VMO : ViewMail を Outlook (ENU) を使用して起動できません。Windows XP の [ コントロール パネル ] の [ 地域と言語のオプション ] で [ Unicode 対応でないプログラムの言語 ] が [ 中国語 (中国) ] に設定されています。

表 3 ViewMail リリース 4.0(5) の解決済みの警告 (続き)

警告番号	重大度	説明
CSCef61435	6	電話による録音と再生のための複数のユーザ プロファイルが Media Master コントローラでサポートされていません。
CSCef77212	2	VMO 4.0(4) が Unity 4.0(3) 以前の Unity のリリースで機能しません。
CSCeg12958	3	Ok メッセージにアクセスしようとすると、VMO 4.0.4 がクラッシュします。
CSCeg35886	3	Outlook にあるボイス メッセージのメッセージを編集すると、Outlook がクラッシュし、WAV ファイルが破損します。
CSCsa65337	3	VMO : メッセージを受信ボックス フォルダから個人フォルダに移動したときに、TRaP の再生と録音の機能を使用できません。

## Cisco Unity に関するドキュメント

Cisco.com 上の Cisco Unity のドキュメントに関する説明と URL については、『*Cisco Unity Documentation Guide*』を参照してください。このドキュメントは Cisco Unity に同梱されており、Cisco.com ( [http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c\\_unity/about/aboutdoc.htm](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_unity/about/aboutdoc.htm) ) でも入手できます。

## 技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。また、テクニカルサポートおよびその他のリソースを、さまざまな方法で入手することができます。ここでは、シスコ製品に関する技術情報を入手する方法について説明します。

### Cisco.com

マニュアルの最新版は、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

各国のシスコ Web サイトには、次の URL からアクセスできます。

[http://www.cisco.com/public/countries\\_languages.shtml](http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml)

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp>

### Documentation DVD (英語版)

シスコ製品のマニュアルおよびその他の資料は、製品に付属の Documentation DVD パッケージでご利用いただけます。Documentation DVD は定期的に更新されるので、印刷資料よりも新しい情報が得られます。また、この Documentation DVD パッケージのみを発注することもできます。

Cisco.com 登録ユーザ (Cisco Direct Customers) の場合、Ordering Tool または Cisco Marketplace から Cisco Documentation DVD (Product Number DOC-DOCDVD=) を発注できます。

Cisco Ordering tool:

<http://www.cisco.com/en/US/partner/ordering/index.shtml>

Cisco Marketplace:

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

### マニュアルの発注方法 (英語版)

英文マニュアルの発注方法については、次の URL にアクセスしてください。

[http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/es\\_inpk/pdi.htm](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/es_inpk/pdi.htm)

シスコ製品の英文マニュアルは、次の方法で発注できます。

- Cisco.com (Cisco Direct Customers) に登録されている場合、Ordering Tool からシスコ製品の英文マニュアルを発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/partner/ordering/index.shtml>

- Cisco.com に登録されていない場合、製品を購入された代理店へお問い合わせください。

## シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

## シスコ製品のセキュリティの概要

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル ( 英文のみ ) を無料で提供していません。URL は次のとおりです。

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_security\\_vulnerability\\_policy.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html)

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする

シスコ製品に関するセキュリティ勧告および注意事項の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

勧告および注意事項がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、次の URL から Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication ( PSIRT RSS ) フィードにアクセスしてください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_psirt\\_rss\\_feed.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html)

## シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合 : [security-alert@cisco.com](mailto:security-alert@cisco.com) ( 英語のみ )
- 緊急でない場合 : [psirt@cisco.com](mailto:psirt@cisco.com) ( 英語のみ )



### ヒント

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP ( Pretty Good Privacy ) または互換製品を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 8.x と互換性のある暗号化情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号キーは、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開キーは、次の公開キー サーバのリストで作成日が最新のキーです。

<http://pgp.mit.edu:11371/pks/lookup?search=psirt%40cisco.com&op=index&exact=on>

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302 ( 英語のみ )
- 1 408 525-6532 ( 英語のみ )

## テクニカル サポート

シスコと正式なサービス契約を交わしているすべてのお客様、パートナー、および代理店は、Cisco Technical Support で 24 時間テクニカル サポートを利用することができます。Cisco.com の Cisco Technical Support Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

### Cisco Technical Support Web サイト

Cisco Technical Support Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間 365 日、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

Web または電話でサービス リクエストを発行する前に、Cisco Product Identification (CPI) ツールを使用して製品のシリアル番号を確認してください。CPI ツールには、Cisco Technical Support Web サイトから、Documentation & Tools の下の **Tools & Resources** リンクをクリックするとアクセスできます。アルファベット順の索引ドロップダウン リストから **Cisco Product Identification Tool** を選択するか、Alerts & RMAs の下の **Cisco Product Identification Tool** リンクをクリックします。CPI ツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、**show** コマンド出力のコピー アンド ペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。

### Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

## サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3: ネットワークに軽微な障害が発生した、S4: 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が自動的に検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、Cisco TAC のエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1: ネットワークがダウンした、S2: ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、Cisco TAC のエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

## サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): ネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストラクション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

## その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

- Cisco Press では、ネットワーキング全般、トレーニング、および認定資格に関する書籍を広範囲にわたって出版しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版物やその他の情報を調べるには、次の URL から Cisco Press にアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>

- 『*Packet*』はシスコシステムズが発行する技術者向けの雑誌で、インターネットやネットワークへの投資を最大限に活用するために役立ちます。本誌は季刊誌として発行され、業界の最先端トレンド、最新テクノロジー、シスコ製品やソリューション情報が記載されています。また、ネットワーク構成およびトラブルシューティングに関するヒント、コンフィギュレーション例、カスタマー ケース スタディ、認定情報とトレーニング情報、および充実したオンラインサービスへのリンクの内容が含まれます。『*Packet*』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/packet>

日本語版『*Packet*』は、米国版『*Packet*』と日本版のオリジナル記事で構成されています。日本語版『*Packet*』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/news/packet/>

- 『*iQ Magazine*』はシスコシステムズの季刊誌で、成長企業が収益を上げ、業務を効率化し、サービスを拡大するためには技術をどのように利用したらよいかを学べるように構成されています。本誌では、実例とビジネス戦略を挙げて、成長企業が直面する問題とそれを解決するための技術を紹介し、読者が技術への投資に関して適切な決定を下せるよう配慮しています。『*iQ Magazine*』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/iqmagazine>

- 『*Internet Protocol Journal*』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『*Internet Protocol Journal*』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/ipj>

- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>

CCIP、CCSP、Cisco Arrow のロゴ、Cisco Powered Network のマーク、Cisco Unity、Follow Me Browsing、FormShare、および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn、および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービスマークです。Aironet、ASIST、BPX、Catalyst、CCDA、CCDP、CCIE、CCNA、CCNP、Cisco、Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS、Cisco IOS のロゴ、Cisco Press、Cisco Systems、Cisco Systems Capital、Cisco Systems のロゴ、Empowering the Internet Generation、Enterprise/Solver、EtherChannel、EtherFast、EtherSwitch、Fast Step、GigaDrive、GigaStack、HomeLink、Internet Quotient、IOS、IP/TV、iQ Expertise、iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard、LightStream、Linksys、MeetingPlace、MGX、Networkers のロゴ、Networking Academy、Network Registrar、Packet、PIX、Post-Routing、Pre-Routing、ProConnect、RateMUX、Registrar、ScriptShare、SlideCast、SMARTnet、StrataView Plus、SwitchProbe、TeleRouter、The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient、TransPath、および VCO は、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。

このマニュアルまたは Web サイトで言及されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもので、「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0403R)

Copyright © 2005, Cisco Systems, Inc.  
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。

シスコシステムズでは以下のURLで最新の日本語マニュアルを公開しております。  
本書とあわせてご利用ください。

Cisco.com 日本語サイト

[http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual\\_j/](http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/)

日本語マニュアルの購入を希望される方は、以下のURLからお申し込みいただけます。

シスコシステムズマニュアルセンター

<http://www2.hipri.com/cisco/>

上記の両サイトで、日本語マニュアルの記述内容に関するご意見もお受けいたしますので、  
どうぞご利用ください。

なお、技術内容に関するご質問は、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。



シスコシステムズ株式会社

URL:<http://www.cisco.com/jp/>

問合せ URL:<http://www.cisco.com/jp/service/contactcenter/>

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-14-27 国際新赤坂ビル東館

TEL.03-5549-6500 FAX.03-5549-6501